

Vim で快適執筆環境

技術評論社 Software Design 特集記事

© 結城浩

2013年10月号向け

ThinkPad から MacBook へ

この夏は、私の執筆環境が ThinkPad から MacBook Air へ移るといふ大変化が起きました。以下、どんなふうにして執筆環境が移ったかをお話しします。

2013 年の 6 月から 7 月にかけて、愛用の ThinkPad の SSD が 2 回も不調になりました。保証期間内で無償修理なのはいいのですが、その間もメ切は待ってくれません。しかたがないので、ThinkPad が戻ってくるまでの間、MacBook Air で原稿を書くようになりました。そのときはまさか Mac がメインの執筆環境になるとは思っていなかったのですが。

これまで私は何回か Mac に執筆環境を移行しようと思っていました。その障害となるのはいつもキーボードとテキストエディタです。

キーボードは慣れで解決

まずはキーボードです。MacBook Air のキーボードはキーの縁でどうも指先が引っかかる。思わず「面取り」をしたくなるほどです。

しかし ThinkPad が故障している間は、すべての文章を MacBook Air のキーボードで書かなければなりません。原稿を何本か書くうちに指先の引っかかりがなくなってきました。**正確なキーの位置を指が覚え始めた**のです。

これまでは、いつもそばに ThinkPad がありました。そのため、Mac を使って少し不満があると「やっぱり ThinkPad がいいや」と戻っていました。今回のように強制的に書き続けていればちゃんと慣れるものだったのですね。

日本語モードは KeyRemap4MacBook で解決

キーボードでは日本語モードの切り換えも問題でした。Windows での ALT+ 漢字キーという手の動きが、Mac に移っても直らないのです。かなキーと英数キーを使えばいいのですが、頭がどうしても切り換わりません。

そこで、**システム環境設定のキーボードショートカットで「前の入力ソースの選択」を Command+1 に割り当てました**。さらに、**KeyRemap4MacBook を使って英数キーを Command に割り当てました**。これによって、Windows のときと似た手の動きで日本語モードの切り換えが可能になりました。

秀丸エディタから Vim へ

Mac には秀丸エディタがない。執筆環境を移行できない大きな理由がこれでした。私にとって「手になじむエディタ」というのはまさに秀丸エディタのこと。Mac にも良いエディタはたくさんあるのですが、帯に短し襷に長し。

20 数年前、UNIX をメインの環境にしていたときのエディタは vi でした。vi も当時の私にとって「手になじんだエディタ」でしたが、もっぱらコードを書くためのものであり、vi で日本語入力をしたことはありませんでした。vi のモード切り換えと、日本語入力のモード切り換えが干渉しあってひどい目に遭うからです。

しかし、**KeyRemap4MacBook を使って ESC を ESC+ 英数に割り当てるとモード切り換えの干渉が激減しました**。**入力モードからノーマルモードに戻ったときに日本語入力が自動的にオフになる**からです。それでもノーマ

ルモードで文字を入力してしまうという勘違いがときどき起きました。そこで、**入力モードに入ったときにステータス行の色を変える**という改善を行いました。

キーボードの問題とモードの問題が解決して、私は MacBook Air と Vim に自分の執筆環境を移行しようと本気で考え始めました。

Emacs 風の入力モードで快適に

Vim を使い始めて驚いたのは**入力モードで自由にカーソルが動ける**という点です。古の vi ではそんなことはできませんでしたから。Vim の**入力モードのカーソル移動を Emacs 風に調整**しました。これで、ノーマルモードでは Vim の気分で動きまわり、入力モードでは Emacs の気分で書く感覚になりました。

ここまで来ると、モードの干渉は気にならなくなり、それどころか**Vim のモードが文章書きにじっくりくる**ようにさえ感じられてきました。つまり、Vim のノーマルモードと入力モードが、文章を眺めているモードと書いているモードにそれぞれ対応するということです。

フォントを変えて快適に

Mac に執筆環境を移行してフォントの美しさに感動しました。日本語には**ヒラギノ明朝 ProN**を使い、ラテン文字には心が洗われるフォント **Inconsolata** を使っています。

Vim で三点リーダー (…)、星マーク (★)、矢印 (→) の表示がおかしい現象がありました。文字の一部が欠けたり、幅が狭く表示されたりするのです。これは `:set ambiwidth=double` という設定で改善しました。

カラーリングを調整して快適に

Vim でうれしいのは**シンタックスカラーリング**の充実です。自分が書くものは LaTeX, Perl, Ruby, Java, HTML, CSS くらいですが、すべて自動判断でカラーリングされました。また LaTeX の太字指定コマンドである `\textbf{テキスト}` を使うと、テキストがちゃんと太字になってくれるのもうれしいですね。

構文ファイルを見よう見まねで作成し、**自分が書くテキストファイルもシンタックスカラーリング**するようになりました。細かい色合いは、Vim の側で調整するよりも、**ターミナルソフト iTerm2 の環境設定で色割り当てを調整**した方が楽なのでそうしています。

うれしい誤算の夏

振り返ってみますと「キーボードがいやでエディタがないから Mac に移行できない」という私の思い込みは「強制的に Vim で原稿を書く」という経験で消えました。ThinkPad の故障のおかげで MacBook Air へ執筆環境が完全に移行し、現在もこの原稿は MacBook Air と Vim で書いています。さらに、以前から願っていたテキストの UTF-8 化も進みました。災い転じて福となすとはこのことです。

MacBook Air で Vim を使って文章を書いていると、タイムスリップしたような不思議な感覚に陥ることがあります。20 数年前の古巣に戻ってきた感覚とでもいうのでしょうか。

執筆環境を整えるのは楽しい作業です。今回で書いた Vim の改善のほとんどは、検索したブログや、Twitter 経由で教えていただいたものでした。みなさんに感謝します。

参考にした Web ページ

- ターミナル上 CUI の vim でノーマルモードに戻ったときに日本語入力モードを自動的にオフにする方法
<http://hyukimac.tumblr.com/post/55089242744/cui-vim>
- 挿入モードでステータスラインの色を変更する
<https://sites.google.com/site/fudist/Home/vim-nihongo-ban/vim-color#color-insertmode>
- vim で入力モード中に簡単な Emacs 風カーソル移動と編集をする設定
<http://tumblr.co/ZpJMirpNsS9N>
- Inconsolata フォント
<http://levien.com/type/myfonts/inconsolata.html>